

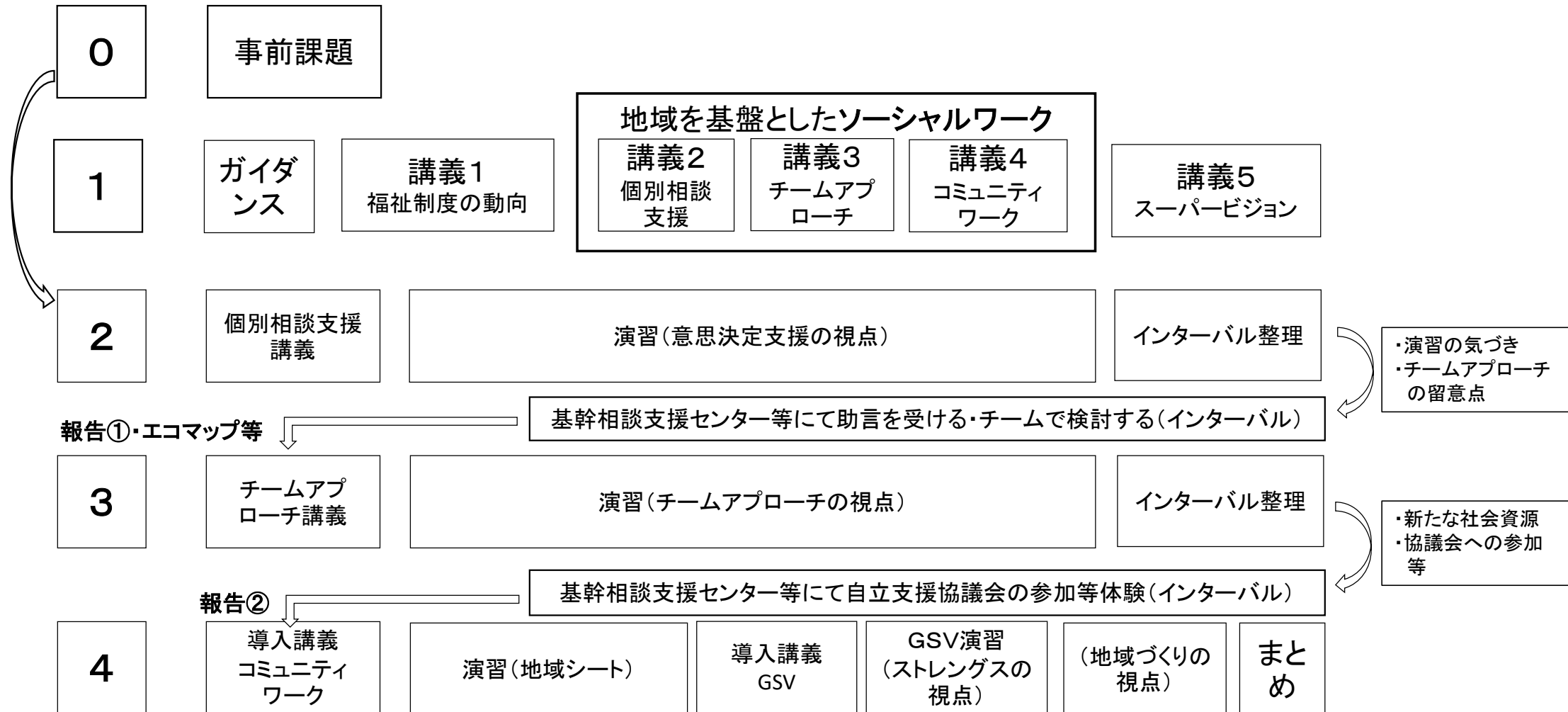
令和8年度 愛知県相談支援従事者現任研修
演習3日目

地域をつくる相談支援 (コミュニティワーク)の実践

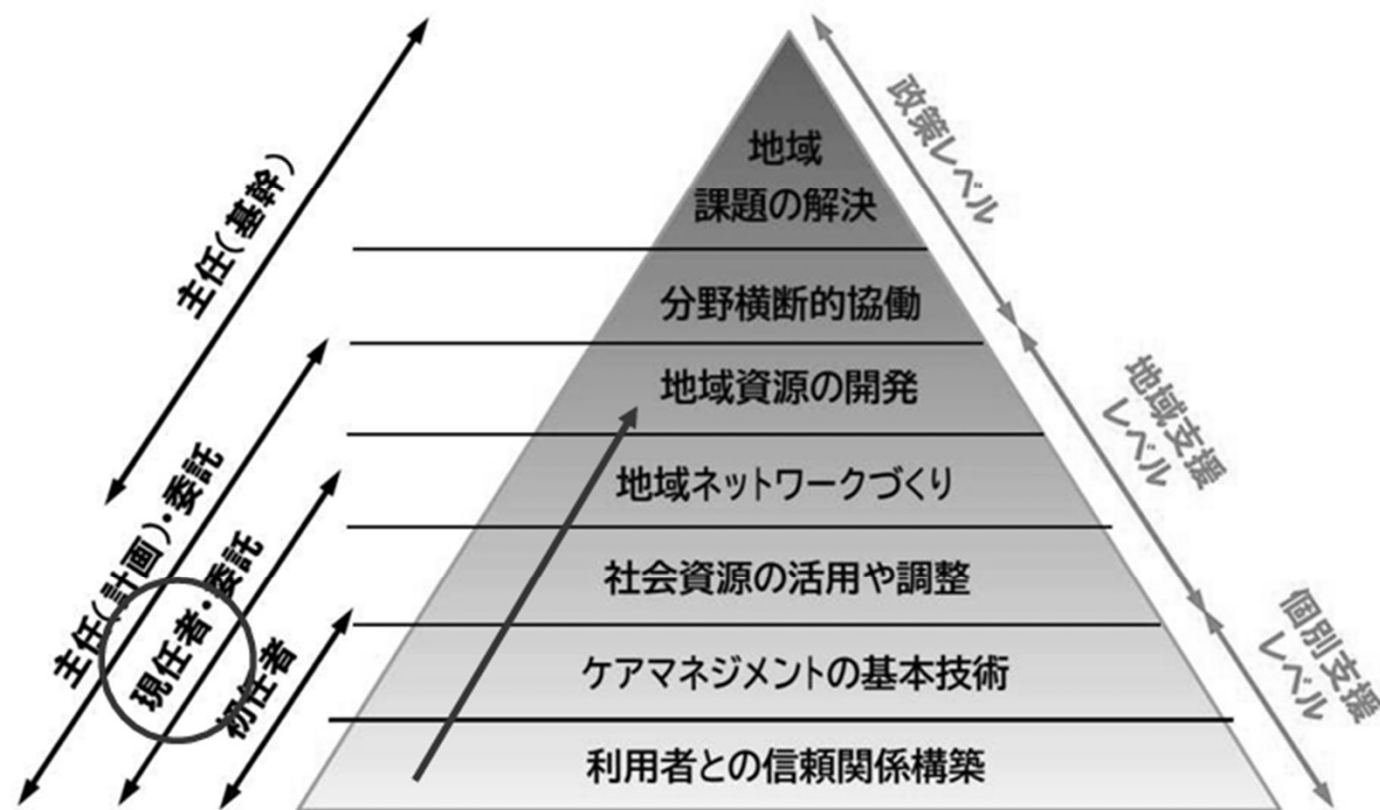
社会福祉法人 半田市社会福祉協議会
半田市障がい者支援センター
徳山勝

社会福祉法人 豊明福祉会
ファイン相談支援事業所
山田美由希

愛知県の現任研修の構造



2-(1)-① 相談支援のレベルと地域づくり



令和4年度相談支援従事者指導者養成研修

演習3日目の獲得目標

- ①地域をつくる相談支援の実践に必要な価値・知識・技術について理解を深める。
- ②自身の地域をつくる相談支援の実践の振り返りや、他の実践例の検討を通じて、地域援助の能力を獲得する。
- ③実践事例を用いてグループスーパービジョンを体験することで、自らの支援について助言・指導を受けることの重要性を理解する。

今日の流れ

9:35～12:40	地域をつくる相談支援	①導入講義 ②地域の状況S記入 →グループ共有 →今後の取組
12:40～13:40	昼休憩	
13:40～17:05	グループスーパービジョン	①導入講義 ②GSV: スtrenグス →地域資源活用 →地域課題 →協議会活用
17:05～17:20	現任研修全体のまとめ	

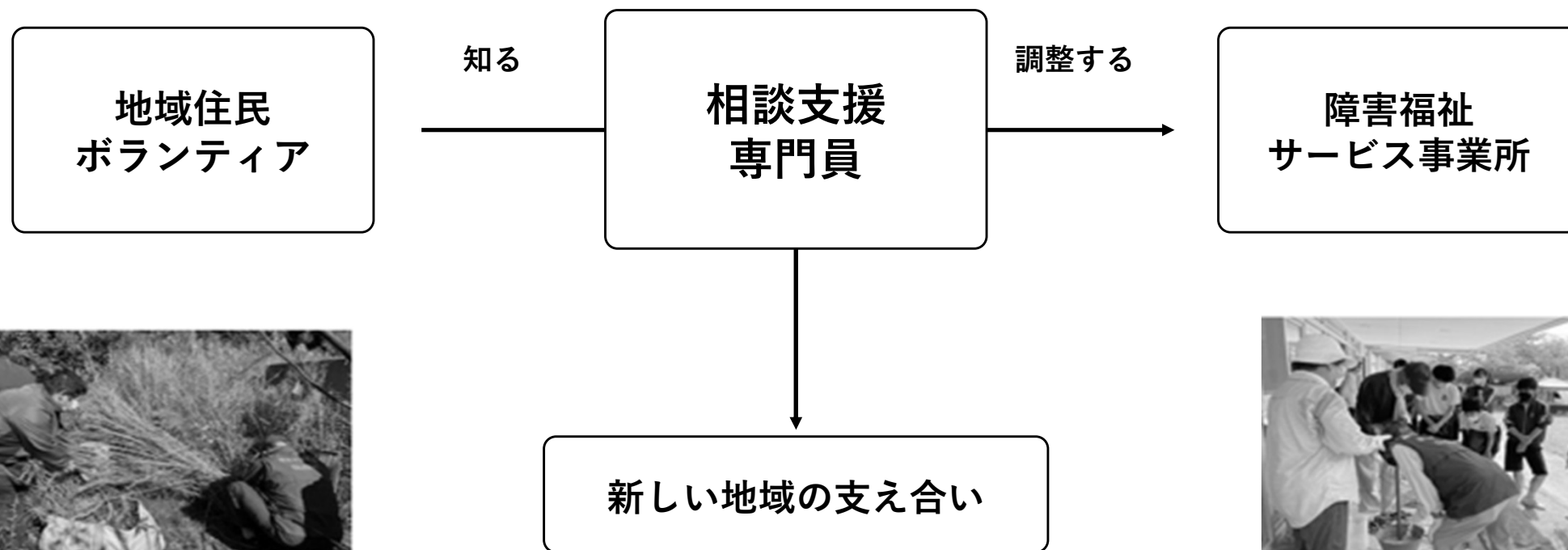
相談支援でかかわる中で……

地域を意識した視点って……

みなさんもっていますか??

相談支援専門員が“つなぐ”

個別ケースの調整から、地域の関係づくりへ



相談支援は、サービス調整だけでは終わらない。
地域の力を見つけ、組み合わせ、動き出せる形にする。

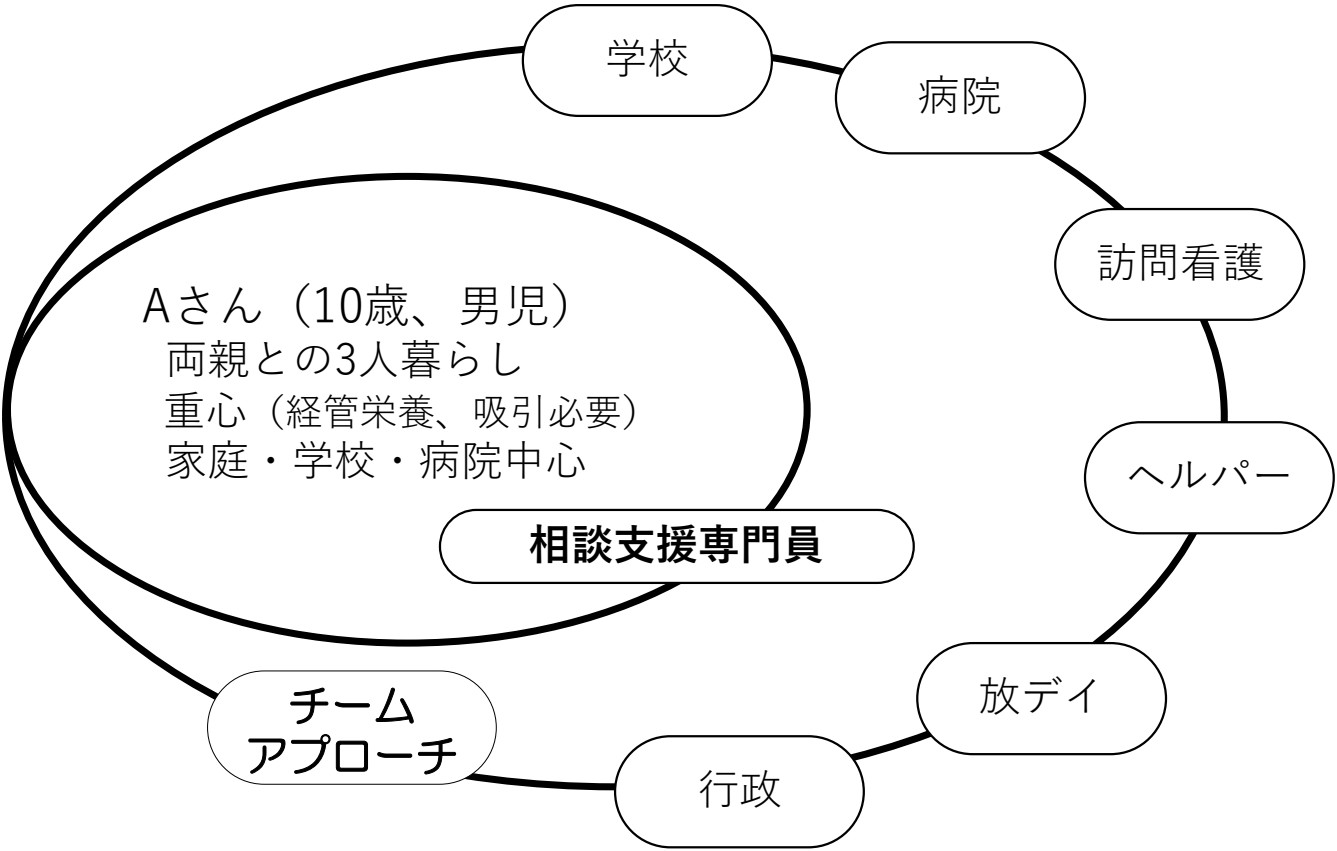
なぜ今 「地域づくり」や「コミュニティワーク」が大事なのか

- ◎制度の枠ではカバーできない課題が増えている
- ◎地域の中で「生きる」ことを支えるには、つながりや役割が不可欠
- ◎本人の望む暮らしをかなえるには、地域に“選択肢”を増やすことが必要
- ◎地域が変われば、本人の暮らしも変わる その中核を担うのが、相談支援
- ◎個別ケースから見える“課題”や“強み”を、地域づくりに活かす
 - そして整った地域資源が、また新たな個別支援を可能にする

事例 1：医療的ケアの必要な方への支援

平成30年度神奈川県現任研修資料 改変

主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会経験、家族（母）のレスパイト



学校から保護者へ相談支援
事業所の情報提供

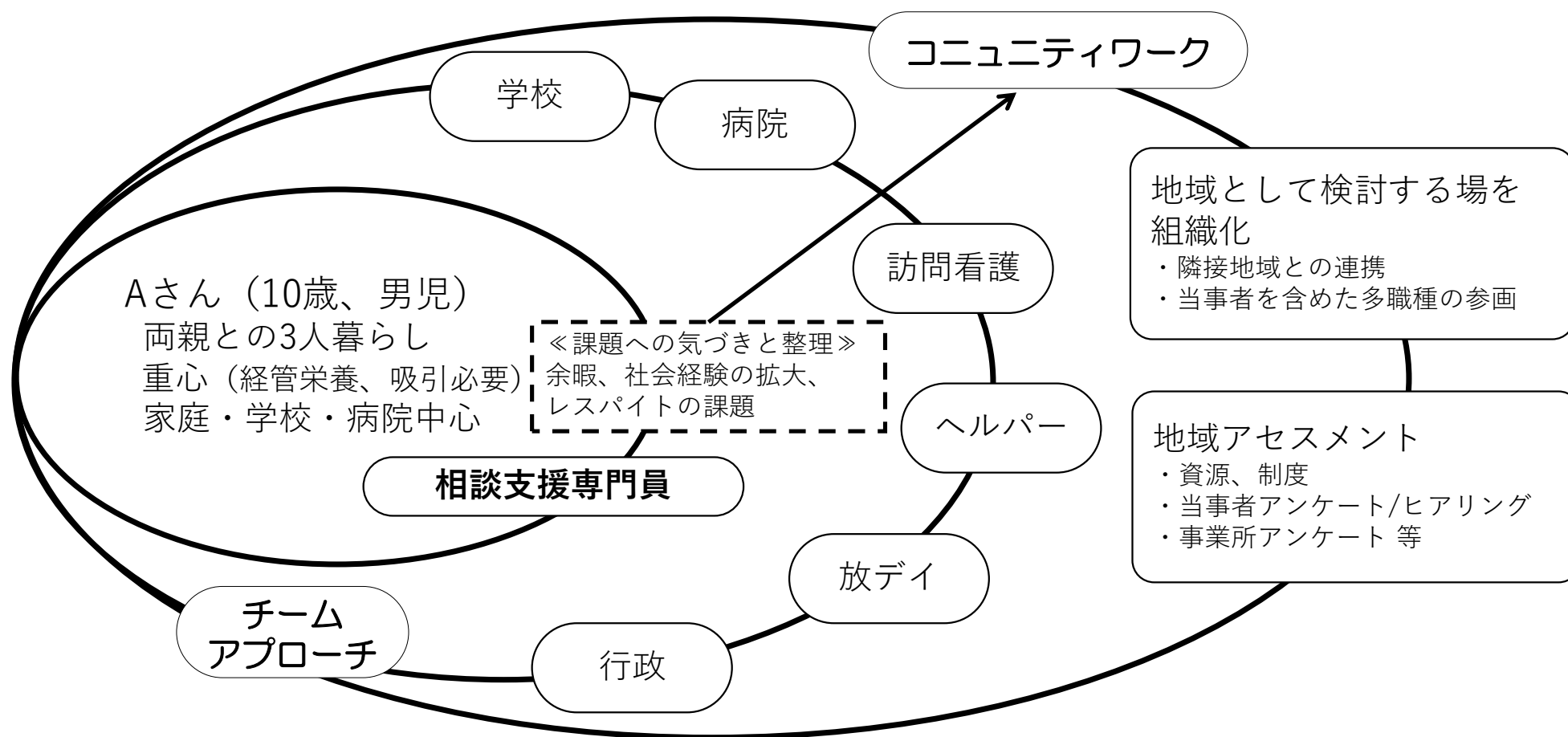
本人、家族、学校、相談が
中心となり在宅支援の体制
を作る（チームアプローチ）。

余暇、社会経験の拡大
家族のレスパイトへの支援
は社会資源、制度の課題
から進展しにくい状況。

事例 1：医療的ケアの必要な方への支援

平成30年度神奈川県現任研修資料 改変

主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会参加、家族（母）のレスパイト

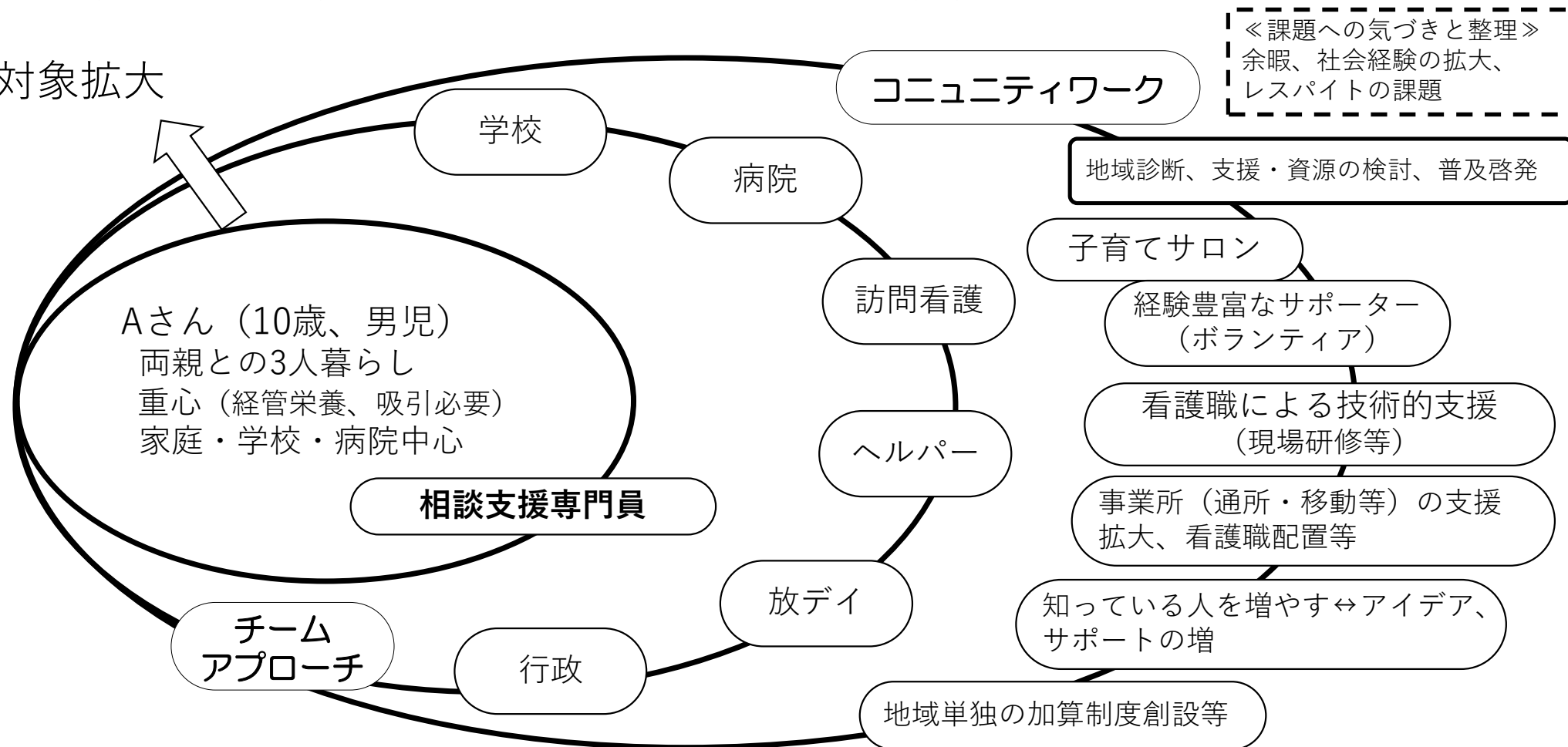


事例 1：医療的ケアの必要な方への支援

平成30年度神奈川県現任研修資料 改変

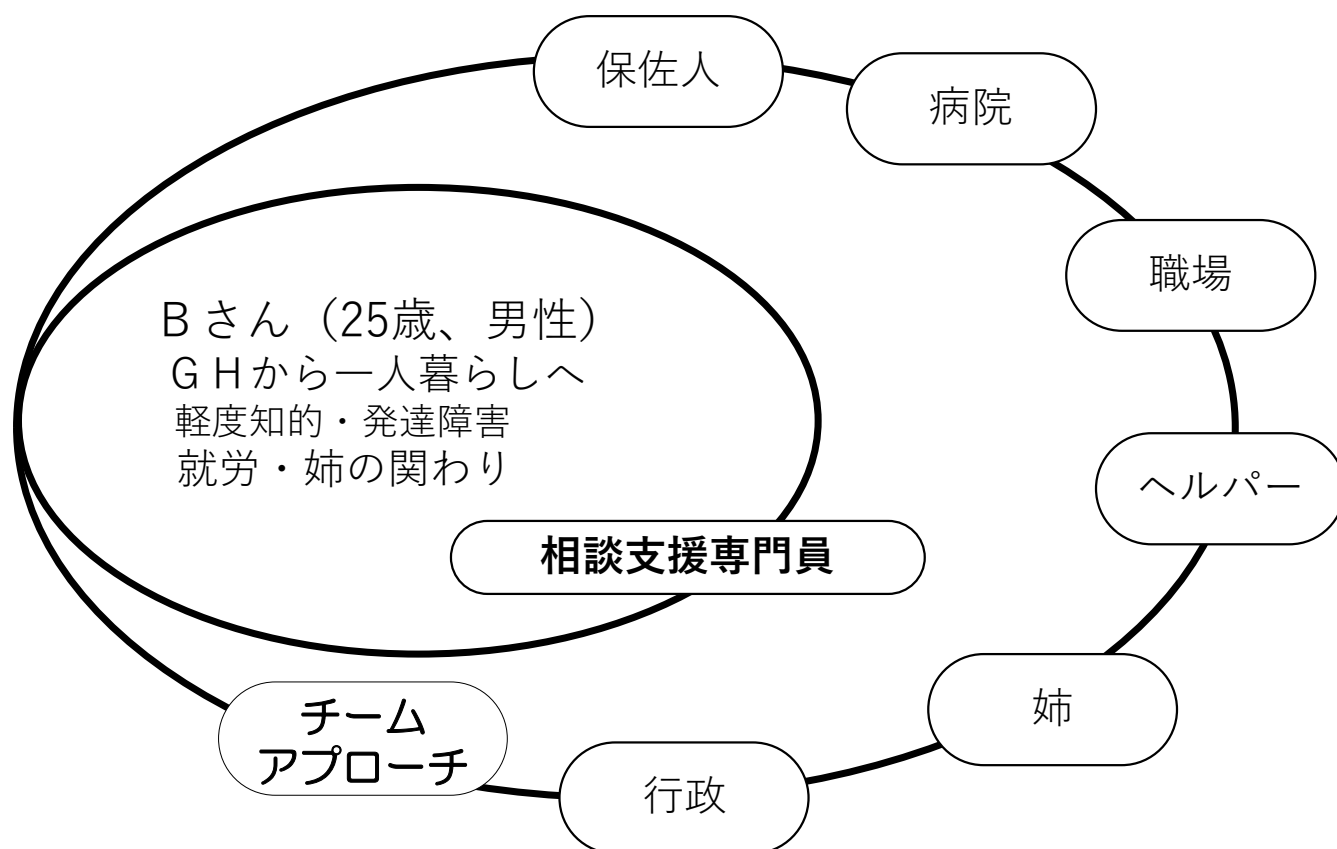
主訴（希望、困り感）：Aさんの余暇、社会参加、家族（母）のレスパイト

対象拡大



事例 2：一人暮らしを始めた方の余暇支援

主訴（希望、困り感）：休日の過ごし方、対人関係（支援者・交友）



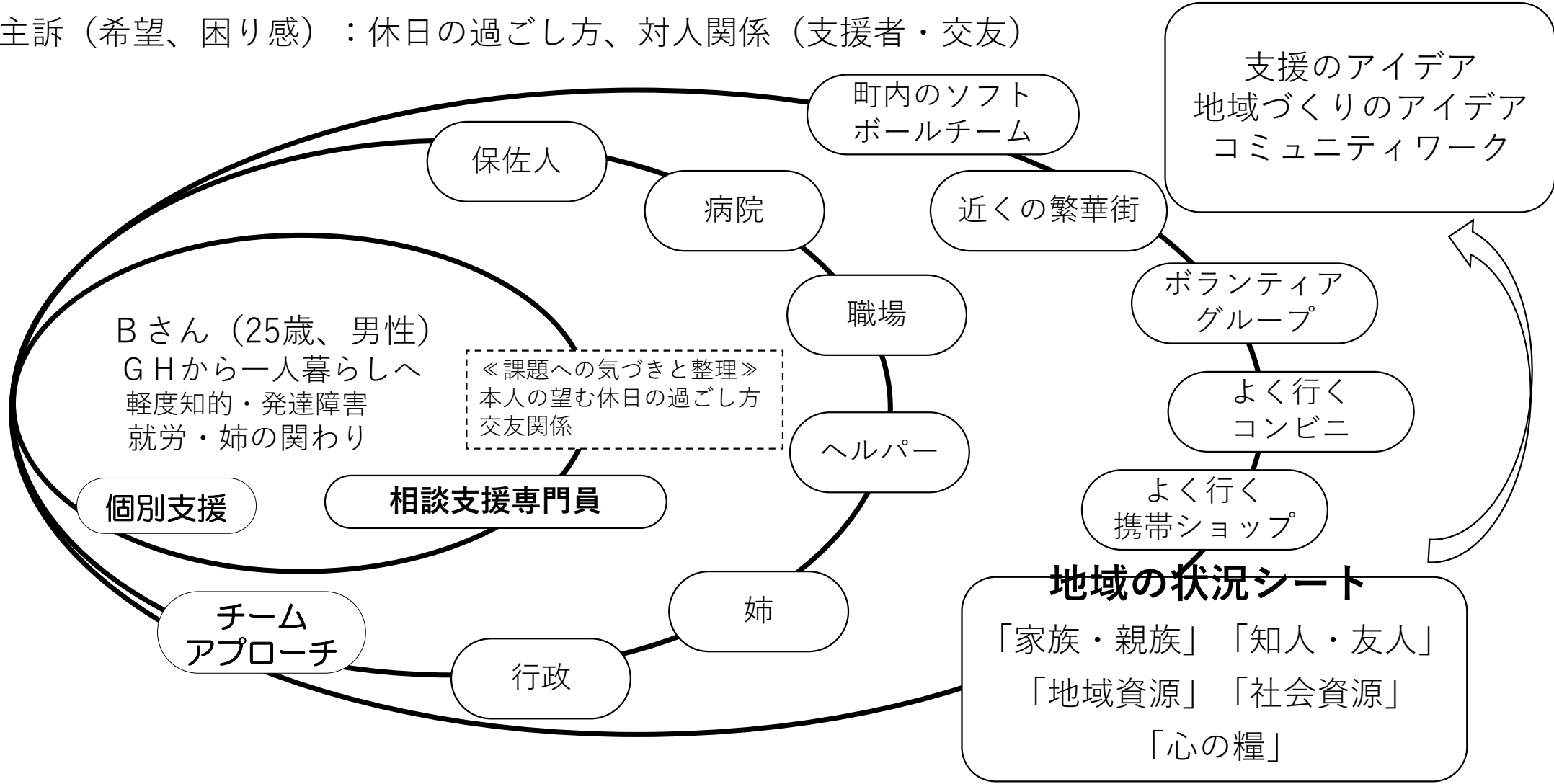
GHを離れて一人暮らしを開始。

本人、GHサビ管、相談が
中心となり支援の体制を
作る（チームアプローチ）。

本人の望む休日の過ごし方や
交友関係について、一緒に考
える必要性

事例 2：一人暮らしを始めた方の余暇支援

主訴（希望、困り感）：休日の過ごし方、対人関係（支援者・交友）



「相談者から見た地域の状況」シート

ワークシート3ー①

＊ 日本社会福祉士会「地域変革のためのヒヤリングシート」を改変

- フォーマルサービスの「利用者」としてではなく、地域で暮らす「生活者」として捉え直してみる。
- 生活者の目線で、地域を眺めてみる。

＊ 社会資源(エコ)マップ(地域全体の把握)→「相談者本人にとっての地域」の把握

- 「どんな団体があるか？どんな人がいるか？」
「もう少し〇〇となるにはどうすればよいか？」
→どこに(誰に)どう働きかけるか？

- 本人が「支える」立場になるとしたら…
- 「心の糧」＝「隠れた資源(本人を元気にさせているもの)」
- 支援のアイデアに！ 地域づくりのアイデアに！（そして午後のGSVへ）

Bさんの場合

1. 家族・親族

続 柄	関係のよい(強い)理由または関係改善の条件
姉	唯一がBさんが連絡を取る家族。姉家族のような家庭にアコがれている。
姪	お土産やお年玉を渡すことがBさんの働くモチベーションとなっている。

2. 知人・友人

関 係	関係のよい(強い)理由または関係改善の条件
当事者団体で知り合ったYくん	分からないことを聞ける相手。Bさんは、もっと会って話がしたいと思っている。
Zさん(交際相手)	Zさんに仕事を辞めてもらい、結婚したいと思っている。

3. 地域資源（インフォーマルサービス）

組織・グループ名	関係のよい（強い）理由または関係改善の条件
ソフトボールチーム 〇〇レッズ	大好きな野球ができる機会だが、練習はたまにしか行かない。本当は試合に先発出場したい。
ボランティアグループ キャロットクラブ	Bさんにとっては、活動が異性と話せる場となっているが、数か月に1度程度の参加である。
Fマート〇〇店	「店長が優しい」と気に入っている。
携帯ショップ 〇〇店	一度、料金プランを見直してもらい、支払いが減ってから気に入っている。新機種を見に行く。
スーパー□□ 〇〇店（職場）	一番長く続いている職場だが、店長が交代してから体調不良による早退が目立ち、話し合いが必要。面倒見のよいパートさんがいる。

4. 社会資源（フォーマルサービス）

機関・団体名	関係のよい（強い）理由または関係改善の条件
〇〇ヘルパー ステーション	Bさんにも役割を求めるヘルパーのことを嫌い、何度か交代してもらっている。
◇◇区福祉課	窓口で一度職員とモメてから、行きたがらない。福祉パスなど、必要性の高い手続きには行く。
〇〇クリニック	症状が上手く伝わるようになると、定期通院できそう。
保佐人（Pさん）	信頼しているが、所持金が不足するとモメる。

5. 本人は地域にとってどんな資源となり得るか？

障害があっても地域のソフトボールチームでレギュラーになれることを当事者やチームに証明

6. 心の糧

野球（中日ドラゴンズ）、サッカー（名古屋グランパス）、スマホ、オゴること

7. 支援のアイデア

演習 I

- ① 持参した「エコマップ」を参考に、「相談者から見た地域の状況シート」を記載する <<個人ワーク 15分>>
- ② 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント 10分
+各グループで10分休憩を入れてください。>>
- ③ ミニ講義 <<15分>>
- ④ 支援のアイデア 今後取り組んでみたいことは？ <<個人ワーク5分>>
- ⑤ 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント7分>>

ご本人目線
支援者・相談支援専門員からの
視点ではなく、生活者(ご本人)視
点で

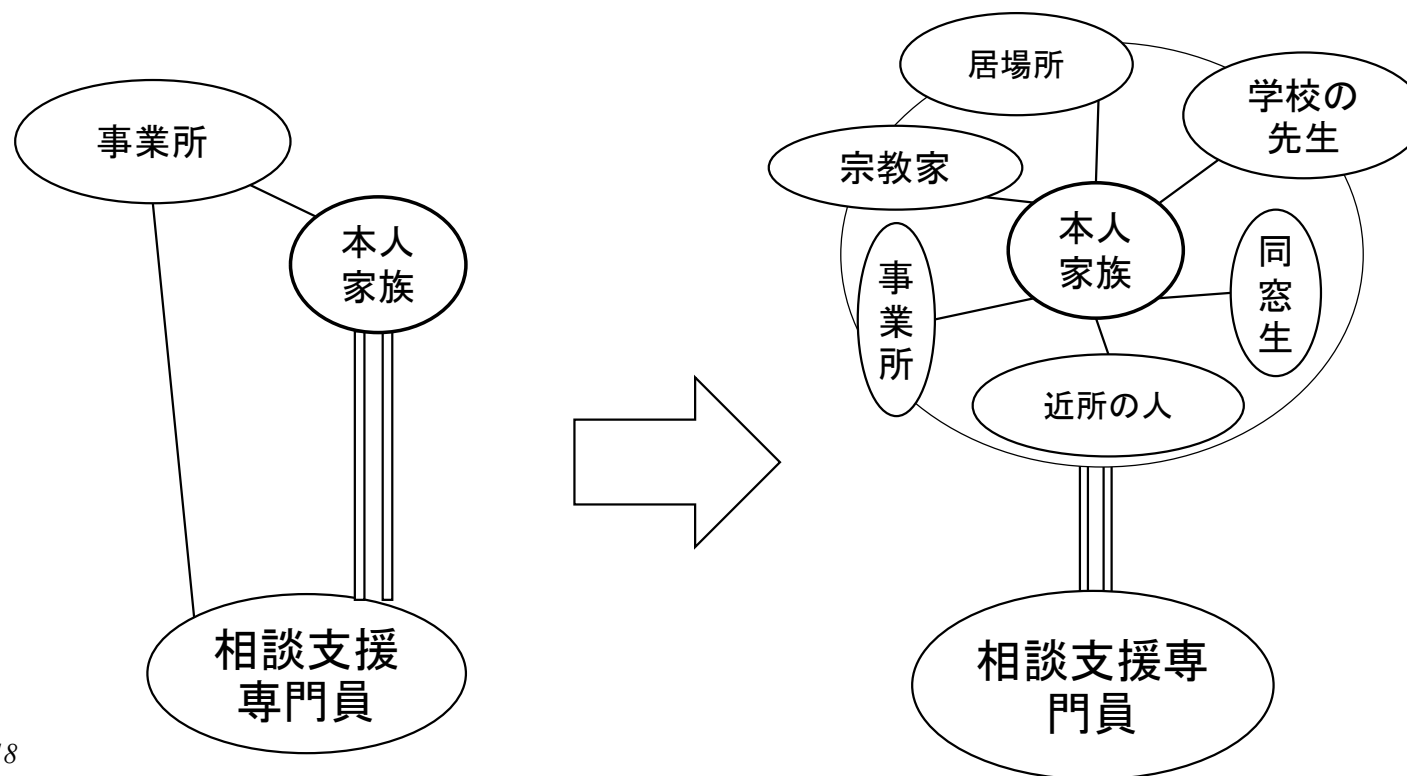
演習 I

- ① 持参した「エコマップ」を参考に、「相談者から見た地域の状況シート」を記載する <<個人ワーク 15分>>
- ② 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント 10分>>
+各グループで10分休憩を入れてください。（※全部で70分）
- ③ ミニ講義 <<15分>>
- ④ 支援のアイデア 今後取り組んでみたいことは？ <<個人ワーク15分>>
- ⑤ 気づきや感想をグループ内で共有する
<<42分=7分×6人+演習講師コメント>>

具体的な動き①

関わり方を変えていく

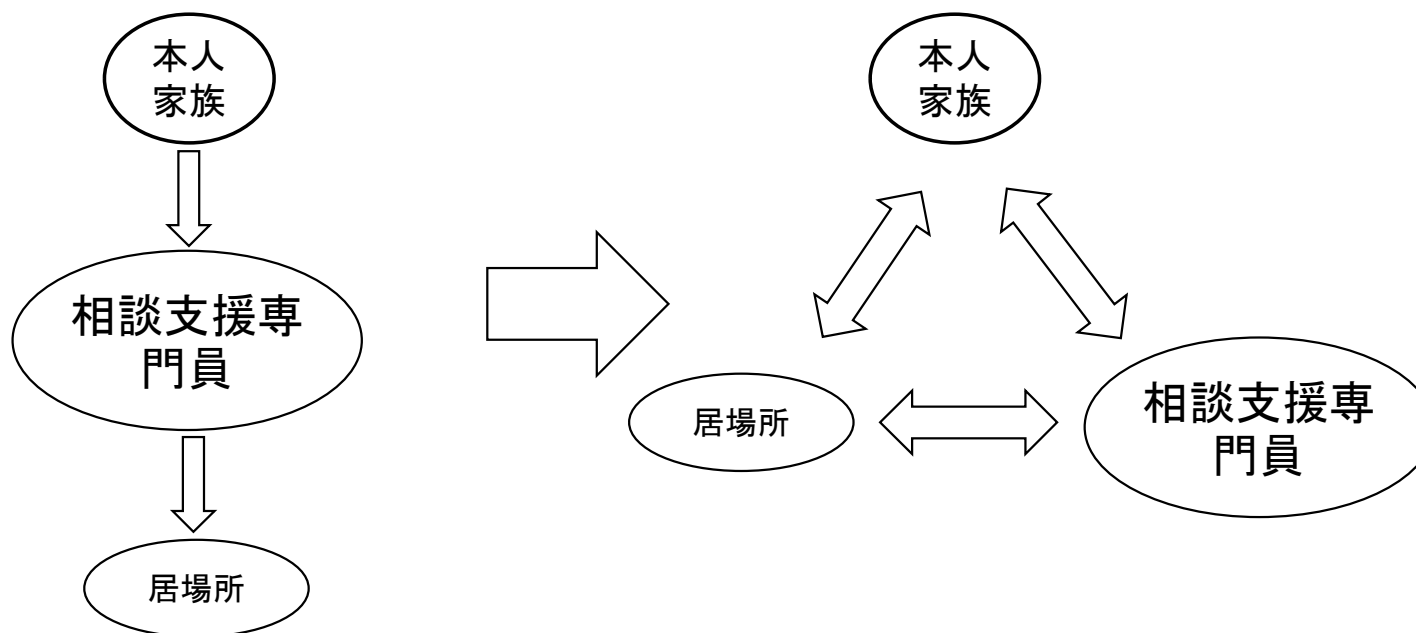
本人や事業所との直接的なやり取りだけでなく、周辺にいる人や関わる機関と本人の関係をみてる。



具体的な動き②

話し合いを変えていく

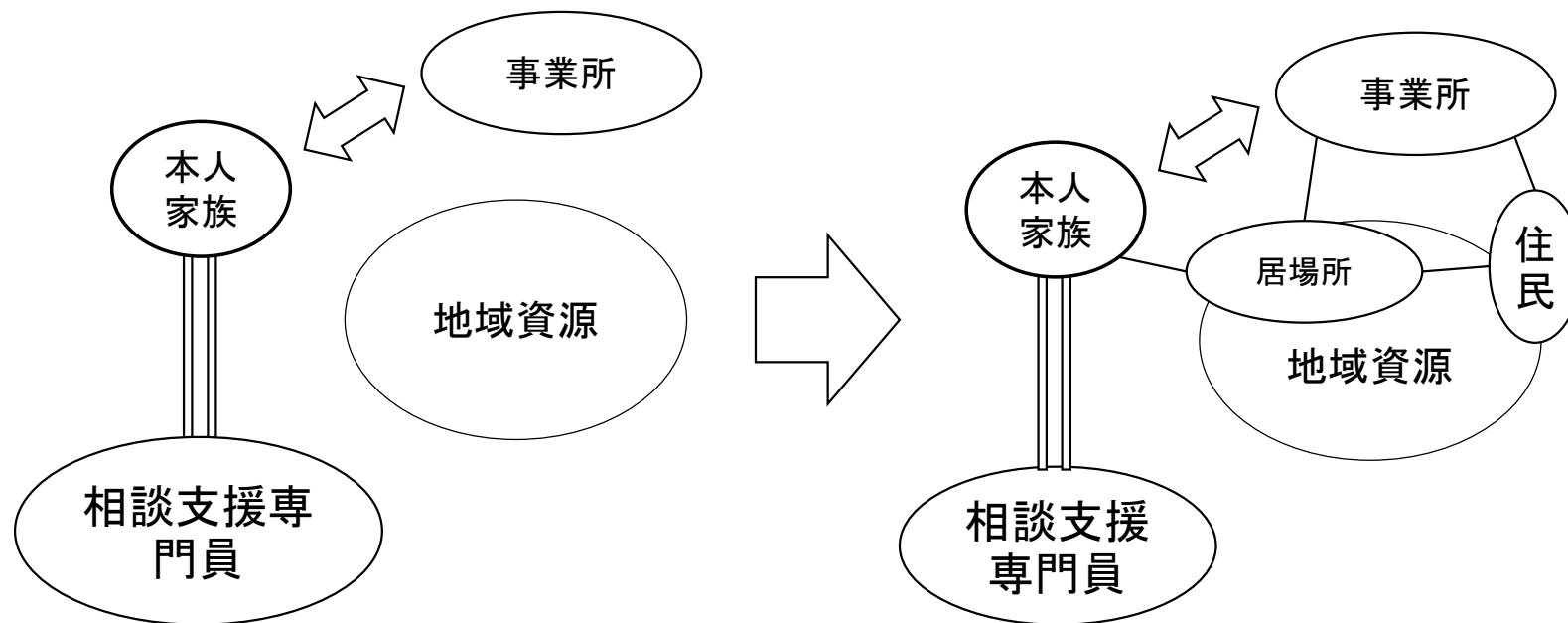
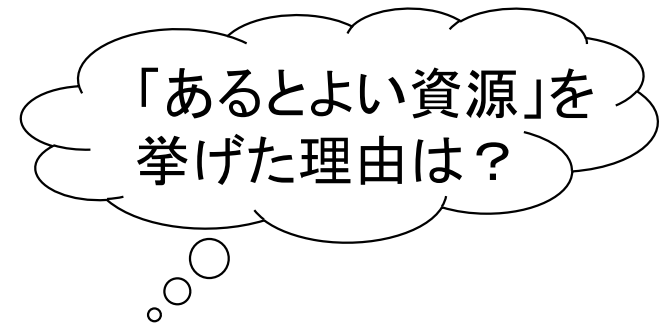
本人の意思や希望を相談支援専門員だけでなく周辺の
の人々も交えて聴いていく



具体的な動き③

使う資源を変えていく

いつも使っているサービスに一つ工夫を入れて、
地域との接点を増やしていく



「地域への働きかけ」の例

□ 医療的ケアが必要なAさん

子育てサロン

経験豊富なサポーター
(ボランティア)

看護職による技術的支援
(現場研修等)

地域単独の加算制度創設等

事業所(通所・移動等)の支援拡大、
看護職配置等

知っている人を増やす⇔アイデア、
サポートの増

児童部会に子育てサロンも
来てもらおうか？

ヘルパーと看護職の意見
交換ができる機会を…

□ 一人暮らしを始めたBさん

町内のソフト
ボールチーム

近くの繁華街

ボランティア
グループ

よく行く
コンビニ

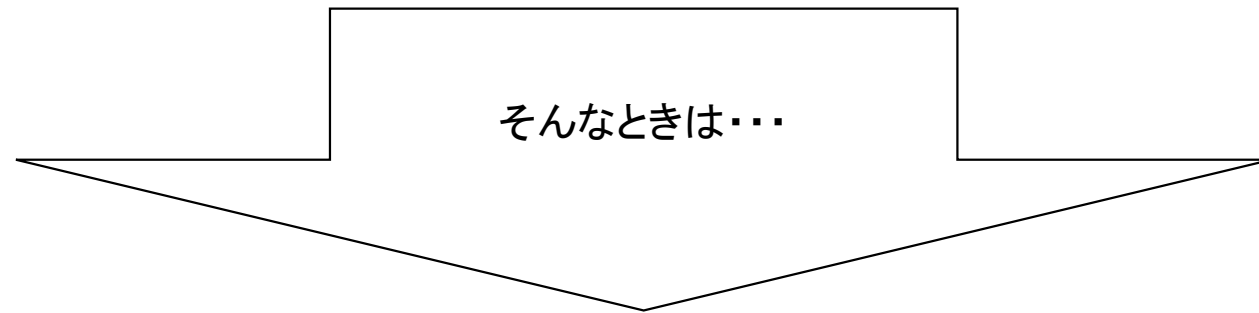
よく行く
携帯ショップ

当事者部会で、アプリの
使い方講座やろうか！

ソフトボール教室やると、大会に
出る事業所が喜ぶかも！
Bさんもサポート役で！

課題は明確になったけど、なかなかアイデアが浮かばない……

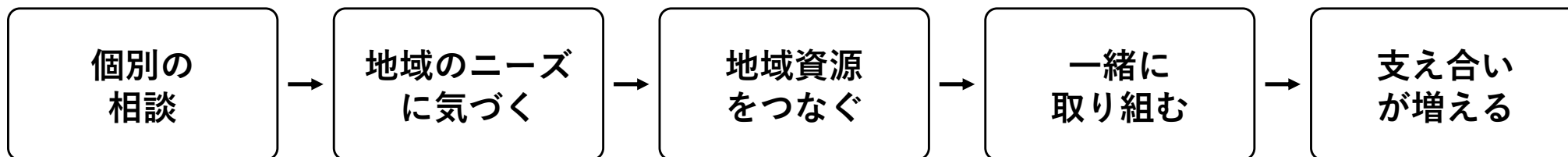
アイデアは浮かんだんだけど、どう実現していったらよいかわからない…



○調べてきたフロー図の自立支援協議会の事例検討を使って
いろんな相談員から意見をもらったり、振り返ることで、自分の持っていた視点以外のアプローチなどもみつかると！ はず…

個別支援から地域づくりへ

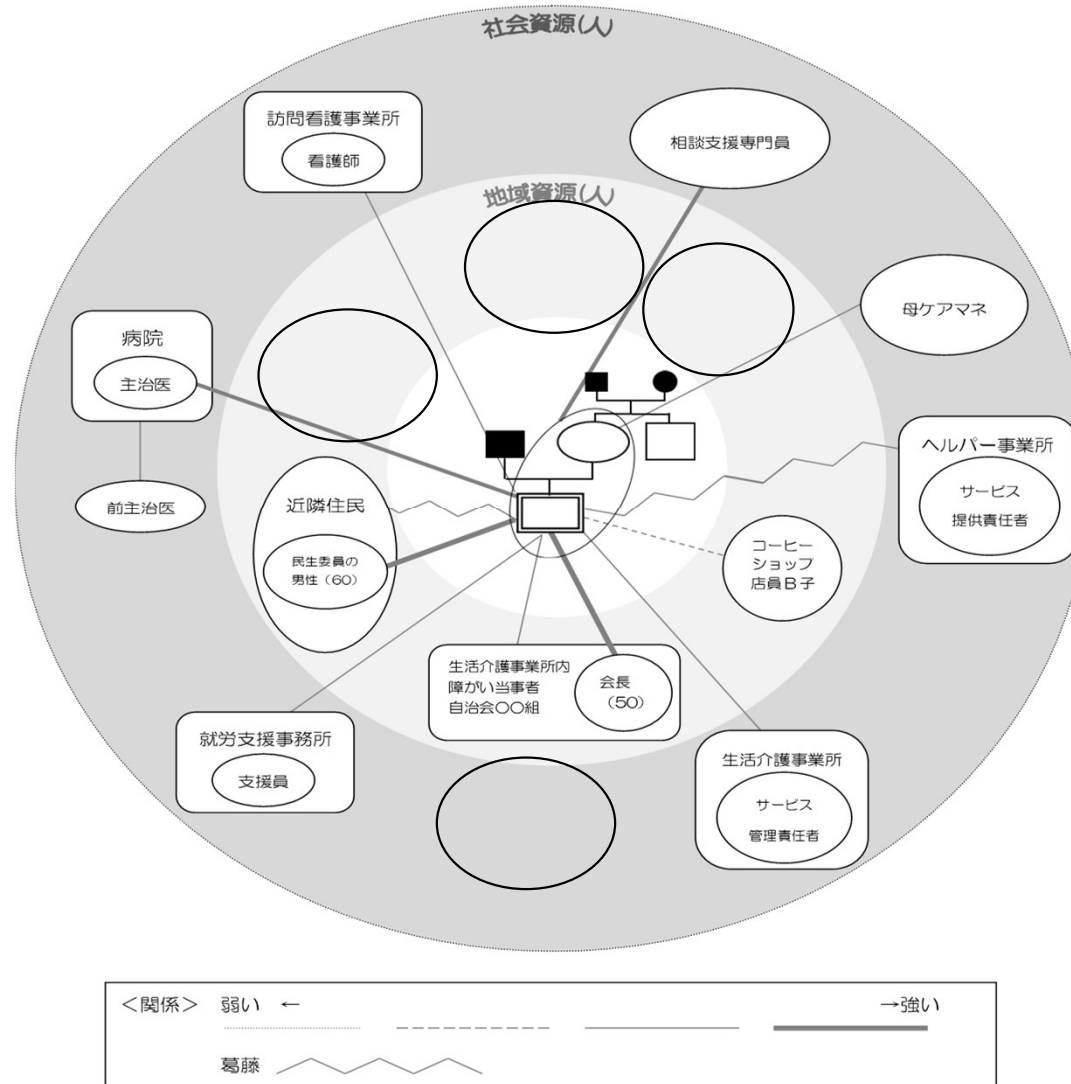
困りごとの背景にある「地域の課題」と「地域の可能性」に目を向ける



これがコミュニティソーシャルワーク

“人を支える”から、“地域の仕組みを一緒につくる”へ

エコマップ



演習 I

- ① 持参した「エコマップ」を参考に、「相談者から見た地域の状況シート」を記載する <<個人ワーク 15分>>
- ② 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント 10分>>
+各グループで10分休憩を入れてください。
- ③ ミニ講義 <<15分>>
- ④ 支援のアイデア 今後取り組んでみたいことは？ <<個人ワーク5分>>
- ⑤ 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント7分>>

演習 I

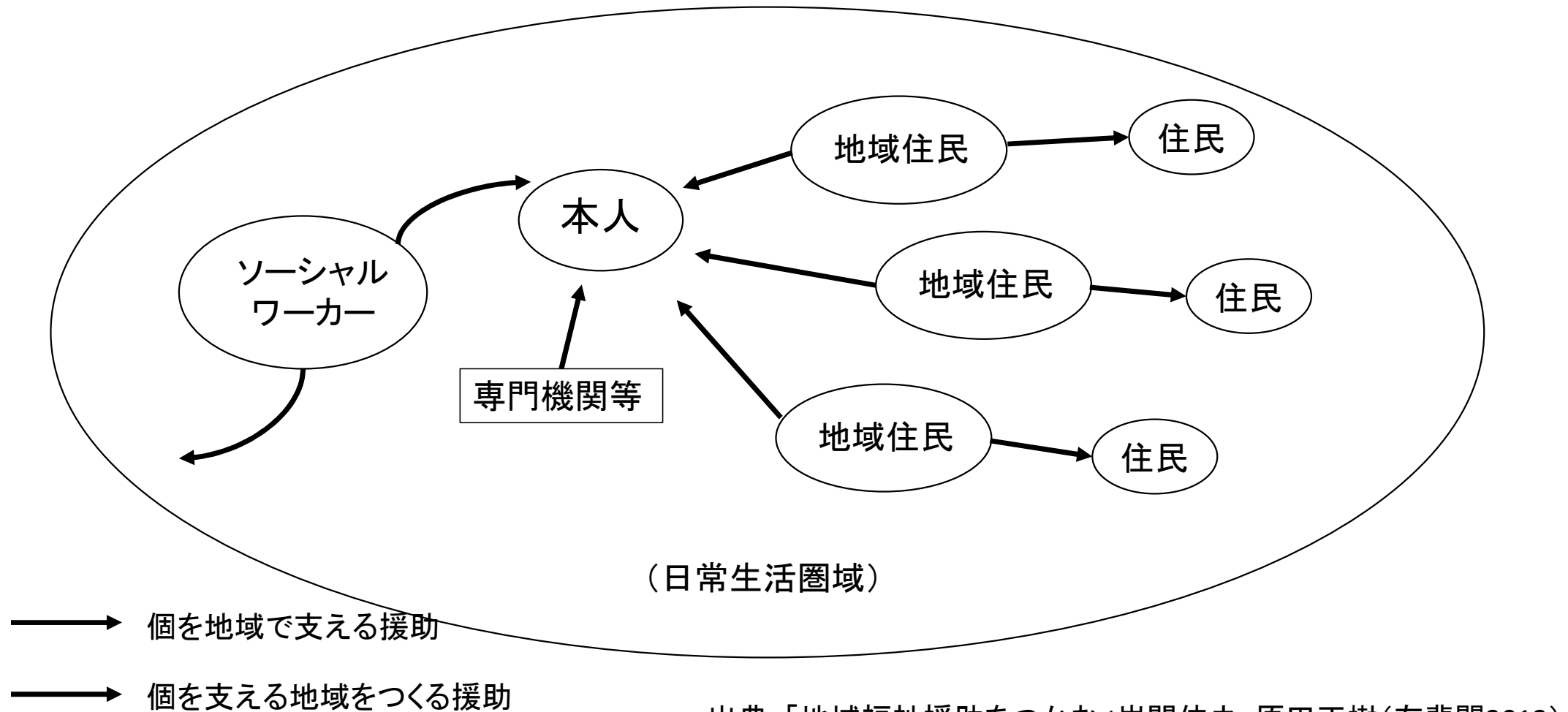
- ① 持参した「エコマップ」を参考に、「相談者から見た地域の状況シート」を記載する <<個人ワーク 15分>>
- ② 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント 10分>>
+各グループで10分休憩を入れてください。
- ③ ミニ講義 <<15分>>
- ④ 支援のアイデア 今後取り組んでみたいことは？ <<個人ワーク5分>>
- ⑤ 気づきや感想をグループ内で共有する
<<48分=8分×6人+演習講師コメント7分>>

⑤ 気づきや感想をグループ内で共有する

＜＜48分＝8分×6人＋演習講師コメント7分＞＞

1. 考えた支援のアイデアを発表
2. インターバル報告書の2. ③課題解決のための仕組みを発表し、考えた支援を具体的に取るためにどこに協力をお願いしていくと良さそうか発表する。
3. 自分のまちの協議会がどうやって地域課題を検討しているのか(フロー図)の発表。
4. 他のグループメンバーからの質問や意見などの共有。
5. 演習講師のコメント(全体で7分)

個と地域の一体的支援 (「一つの事例が地域を変える」積極的アプローチ)



出典:「地域福祉援助をつかむ」岩間伸之・原田正樹(有斐閣2012)

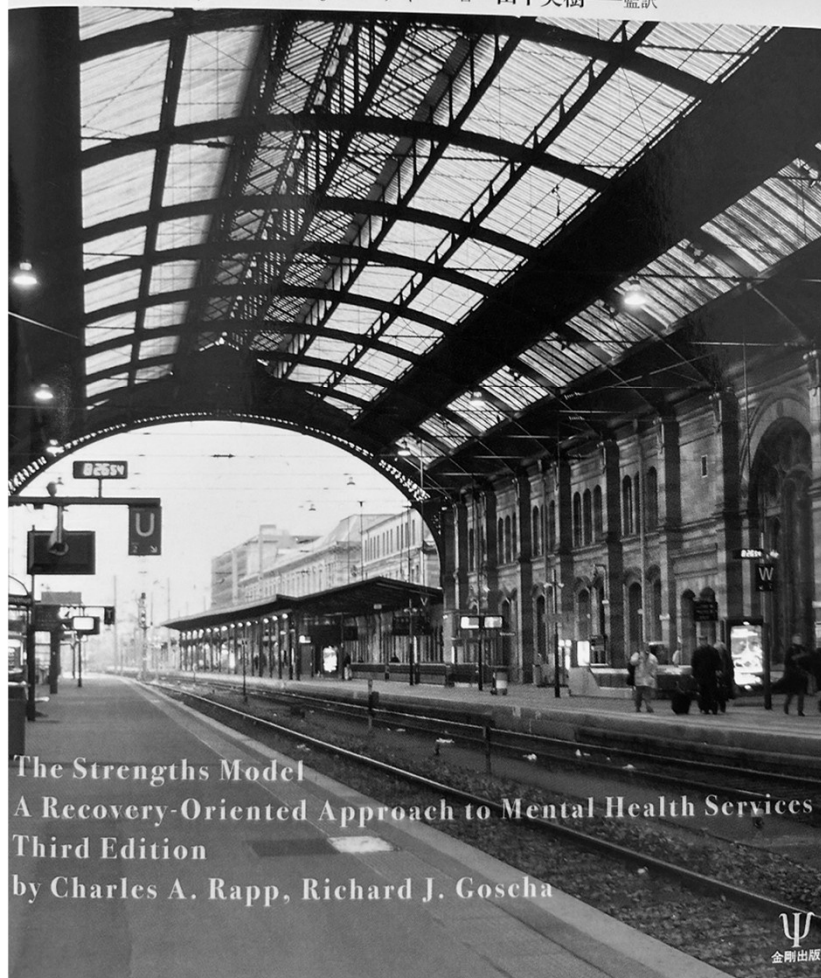
グループスーパービジョン

ストレングスモデル

リカバリー志向の精神保健福祉サービス

[第3版]

チャールズ・A・ラップ／リチャード・J・ゴスチャ——著 田中英樹——監訳



The Strengths Model
A Recovery-Oriented Approach to Mental Health Services
Third Edition
by Charles A. Rapp, Richard J. Goscha

Ψ
金剛出版

相談支援専門員のための

ストレングスモデルに基づく 障害者ケアマネジメントマニュアル

サービス等利用計画の質を高める

監修
小澤 温

編集
埼玉県相談支援専門員協会

中央法規

これからの流れ

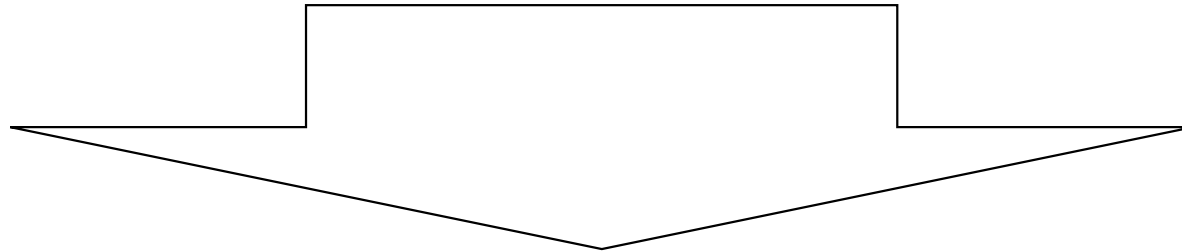
9:35～12:40	地域をつくる相談支援	①導入講義 ②地域の状況S記入 →グループ共有 →今後の取組
12:40～13:40	昼休憩	
13:40～17:05	グループスーパービジョン	①導入講義 ②GSV: スtrenグス →地域資源活用 →地域課題 →協議会活用
17:05～17:20	現任研修全体のまとめ	

スーパービジョンとは・・・

- 対人援助職者が指導者から教育を受ける過程
- 指導者が援助者と規則的に面接を行い、継続的な訓練を通じて専門的スキルを向上させることを目的としている

どうして、スーパービジョンが必要なの・・・

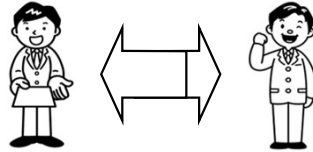
- 相談支援専門員の業務は多岐にわたり、孤立しやすい
- 価値観の揺れやケースの難しさを「ともに考える場」が不可欠
- 専門性・視点の更新のために、学び続ける仕組みが必要



相談支援専門員にとって「専門性を深め、倫理的に実践するための学びの場」であり、「心理的に支えられ、孤立を防ぐ場」でもあります。さらに、個人の力量だけでなく、組織や地域の支援力を高める仕組みとして欠かせない。

スーパービジョンの類型

個人



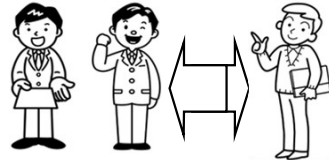
- ケースの掘り下げがしやすい
- ×専門的なSVの確保が難しい

グループ



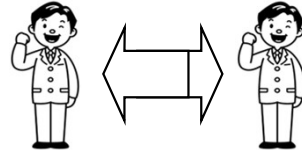
- グループでの共感が生まれる
- ×個人的感情が出しにくい

ライブ



- 具体的な助言が得られる
- ×SVの力量が問われる

ピア



- 親しみやすく入りやすい
- ×単なる友人関係になりやすい

セルフ



- すぐに取り組め振り返り効果が高い
- ×継続していく動機付けが必要

各手法の比較(私見)

		「野中」式	「振り返り」型	ストレングスM
時間		90～120分	35～40分	50～60分
規模		10～30名	6～8名	6～8名
実施	Svr.	高い専門性や進行技術が必要	ほとほとの専門性や進行技術でOK	進行手順を定型化
	Sve.	事例に左右される * 情報量	過去事例に限る	事例に左右される * スtrenグス
	他	・参加者に左右される ・ホワイトボード(数台)の準備	・短時間で実施可 ・事例に限られる ・「事例検討」化することも	・発言しやすい ・継続しやすい ・本来は専用研修を受講
効果		支援計画に直結 * 再アセスメント・再プラン	・振り返りやすい ・複数の課題も大抵は1つに	ストレングス、インフォーマル活用 * 従来にとられないアイデア

グループスーパービジョンのポイント

基本的な考え方

- 通常のスーパージョンと異なり、スーパーバイザー(事例報告者)とスーパーバイザー(その他メンバー)との意見交換により進めていく。
- スーパーバイザーとスーパーバイザーの関係が上下関係(指導関係)ではなく、水平関係になる。
- そのため、コーディネーター(ファシリテーター)による進め方が重要になる。

手法のポイント

- アイデアを徹底的に出し合う(ブレインストーミング)、(これまでの支援の枠にとらわれない)創造的なアイデアはたいへんよい(ファシリテーターの進行の見せどころ)
- 出された多様なアイデア、解釈、意見に対しての報告者からの応答
- ファシリテーターによるまとめ(あるいは、アイデアから実効性の高いものをスーパーバイザーがいくつか選ぶ)

スーパーバイジー(事例提供者)として

- 事例提供の依頼を受けた場合、「振り返り」機会、アイデアをもらえるチャンスと考え、前向きに対応しましょう。

○ 事例提供をするときに支援のアイデアが思い浮かばず困っている事例をだすだけではなく、あえて「変化のない」事例を選ぶのもアリか(思わぬ「強み」や考慮していなかった視点から、新たな展開がイメージできることも)

スーパーバイザーとしても・・・

- GSVの中で、事例提供をして気づきが多くある部分もあるのですが同じような事例だったりすると、参加するだけでも「他への質問」が自分への支援の気づきとなる部分もたくさんある！
- 他の人のアイデアを聞くことで、自分が出すアイデア(発想)の傾向に気づくことができる。

ストレングスモデルの6原理

(アメリカ・カンザス州におけるストレングスモデルの展開と研修の取り組みより)

- 1.障害を持つ人も、リカバリーすることができる
- 2.焦点は個人のストレングスであり、欠陥ではない
- 3.地域は、利用可能な資源の宝庫である
- 4.支援関係を導くのはクライアント本人である
- 5.クライアントとケアマネージャーの人間的なつながりが不可欠である
- 6.支援は地域のなかで行われる

(福井貞亮訳)

1.障害を持つ人も、リカバリーすることができる

➤皆さんは過去に、悲しかったことや辛かったことなど、困難な状況を経験したことがありますか？

➤どのようにして、困難な状況を克服してきましたか？

➤皆さんの「心の糧」は何ですか？

「快適に感じること」「楽しんで行うこと」「不快に思うときに役立つこと」
「生活上、意義を感じること」「人生の中で最も重要なこと(信条)」…

困難な状況に置かれているときはとてもつらいですが、困難な状況にばかりに目を向けているとうまくいかないことが多々あります。そのため、困難を乗り越切った状況をイメージして今の状況に対応できることが重要です。

2.焦点は個人のストレングスであり、欠陥ではない

性格・人柄／個人的特性

才能／素質

環境のストレングス

興味・関心／向上心

➤ストレングス是对話と関係性から…

2人ペアになって会話をしながらストレングスを見出しましょう

誰もがストレングスを活かして生活しています。できるだけ得意なことを活かし、苦手なことを避け…ただ、相談者は上手くそれができていなかったり、支援者が苦手なことの克服を迫りがちです。どこに着目するか、ストレングスを活かせる関係性か、が重要です。

4. 支援関係を導くのはクライアント本人である

➤ 皆さんは中学生の頃、どんな夢をもっていましたか？

➤ 夢は今も同じですか？ その夢をあきらめたとしたら、どうしてですか？

本人と一緒に支援目標を設定しましょう。目標を設定する際に重要なこととして、「興味や強い望み」「ゴール達成に必要な技術」「自信」「環境の資源」が挙げられますが、どれもストレングスにつながります。本人のゴールについて議論するのではなく、受け止めて、そのために必要なことを一緒に考えましょう。

5.クライアントとケアマネージャーの人間的なつながりが不可欠である

- 皆さんの人生の中で、誰かに助けてもらった経験を思い出して下さい。「どんなときに」「誰に」「どのように」助けてもらいましたか？
- そのとき、相手はどのような態度でしたか？

支援者にとって、相談者との信頼関係は支援の前提と言えます。支援的な関係の重要な要素(態度)として、「目的に向かって進む」「相互に利益を得る対等な関係」「誠実さ」「尊敬・尊重」「エンパワメントを促す」の5点が挙げられます。

3.地域は、利用可能な資源の宝庫である

6.支援は地域のなかで行われる

➤もう一度、皆さんの「心の糧」や「助けてくれた人」を思い返してみてください。

私たちは、専門職や特別に用意された事や物に支えられてきたのではなく、身近な人に助けられ、地域に普通にある資源を利用してきました。相談者の深刻な困りごとを解決するために、専門職や特別なサービスが必要となることはありますが、地域で暮らし続けるためには、地域に普通にある資源活用が必要です。

これにより、個別の支援の輪が広がり、社会参加の機会が増え、その人らしい生活が実現しやすくなります。

支援者のやりがいも高まります。

具体的なプロセス

1. 提供する事例の概要とストレングスアセスメント票を提出する。
2. 利用者の目標は何か、スーパーバイザー(事例提供者)が、支援において特に必要としている助言、アイデアは何かを説明する。
3. スーパーバイザーが取り組んでいる現状は何か、すでに取り組んだことは何かについて説明する。
4. 事例の概要とストレングスアセスメント票を読み込んで、スーパーバイザーとしてよりよいアイデアを考えるうえで必要としていることについて質問を通して明らかにする。
5. スーパーバイザー間のブレインストーミングにより、アイデアを出し合う
6. 提案されたアイデアに基づいた相談支援専門員(スーパーバイザー)の支援に関するプランを明らかにする。
7. フォローアップ報告でアイデアが活かされた場合(活かされなかった場合も)の分かち合いを行う。

進行上のポイント

- GSVチーム ブレーンストーミングでのアイデアを整理する
- アイデアの評価はしない。(評価をすることによって雰囲気気が気まづくなる)
- アイデアは4つに分けて整理する。(すべてのアイデアを生かすために)
 - ①すぐできそうなもの(ささやかなアイデア、提案するのははずかしいと思われるアイデアも含む)
 - ②時間をかけないとできそうもないもの
 - ③かなり時間をかけないとできないもの
 - ④事例を通しての気づきとまちづくり的なアイデアに発展しそうなもの(面白い、大胆さ、これまでの固定観念にとられないアイデアを含む)

演習Ⅱ（ストレングスに着目したアイデア出しの体験）

① 事例の選定 <5分> * 役割分担

バイジーになる方は、最後に事例を出して良かったと思えるはず...

選定できたグループから休憩 <10分>

② 事例概要の説明 ※選定された事例を配布 <改めて説明 3分>

③ 本人にとっての目標、バイジーが必要としている助言<5分>

現状、すでに取り組んだことの確認 <5分><<5分+5分=10分>>

④ 事例概要の読み込み（ストレングス視点を持って）<5分>

⑤質疑応答(ストレングスを意識！ストレングス情報の整理3－②を活用)＜12分＞

⑥アイデア出し(ストレングスを意識してなるべくたくさん出す)
ワークシート3－③アイデア整理シート左枠に記入 ＜12分＞

⑦バイジーからアイデアへの質問＜3分＞

⑧バイジーが試してみたいアイデアの選定 ＜3分＞
→バイジーの感想＜2分＞→バイザーの感想の共有＜7分＞
＜＜15分＞＞

⑨アイデアの整理＜15分＞
すぐできそうなもの、時間をかけないとできそうにないもの等に仕分け、
分けられたら下段をみなさんで検討してみてください。

* 休憩10分

ストレングス情報の整理(各自が記載)

ワークシート3ー②

性格・人柄／個人的特性

才能／素質

環境のストレングス

興味・関心／向上心

アイデアの整理（バイジー記載） ワークシート3ー③

支援のアイデア	すぐできそうなもの	時間をかけないとできそうにないもの	かなり時間をかけないとできないもの
＜事例を通しての気づき まちづくり的なアイデアに発展しそうなもの 見えてきた地域の課題等＞			

演習Ⅲ（環境へのアプローチのアイデアの検討）

- ① 環境へのアプローチのアイデアの検討
（誰が何をするか？） <<15分>>

GSVのアイデア出し
のイメージ

アイデアの実現に向けた取り組みの提案

事例提供者も
発言OK！

- ② 我がまちでは、どう取り組むか？ <<20分>>
個人ワーク <5分>
グループ共有 <15分>

- ③ GSVのまとめ（講師コメント） <<10分>>

当事者向けの「アプリ教室」を開こう！

教室開くなら、どこでやれるかなあ。

地域でお願いできそうな店舗はないの？

相談者がよく行くショップなら、私も何度か同行しているから、お願いできるかも…店長さんもいい感じだし…

福祉事業所への協力をアピールできるような機会はないかな？

ショップにもメリットがないと…

最近のアプリは種類もたくさんあるし、障害の有無に関係なく、知りたい人はいそうだよな？

本人もやりたいみたいだし、場所や時間が決められればできそうだよな

ウチの協議会、本人主体のイベントどうしようか悩んでたし提案してみようかな

まちづくりのアイデアの検討(各自が記載)

ワークシート3ー④

コミュニティワーク (環境への アプローチ)	実現に向けた取り組み (誰が何をするか、資源にどのようにアクセスするか、など)	協議会を活用する なら...
事例		
我がまち		

演習Ⅲ（まちづくりのアイデアの検討）

- ① 環境へのアプローチの検討（誰が何をするか？） <<15分>>
アイデアの実現に向けた取り組みの提案
- ② 我がまちでは、どう取り組むか？ <<20分>>
個人ワーク <5分>
グループ共有 <15分>
- ③ GSVのまとめ <<10分>>

グループスーパービジョンのまとめ

1. 障害を持つ人も、リカバリーすることができる
2. 焦点は個人のストレングスであり、欠陥ではない
3. 地域は、利用可能な資源の宝庫である
4. 支援関係を導くのはクライアント本人である
5. クライアントとケアマネージャーの人間的なつながりが不可欠である
6. 支援は地域のなかで行われる

原則は意識できましたか

演習Ⅲ（まちづくりのアイデアの検討）

- ① 環境へのアプローチの検討（誰が何をするか？） <<15分>>
アイデアの実現に向けた取り組みの提案
- ② 我がまちでは、どう取り組むか？ <<20分>>
個人ワーク <5分>
グループ共有 <15分>
- ③ GSVのまとめ <<10分>>

地域で何から始められそう？

今日のまとめ

獲得目標

- 地域をつくる相談支援の実践に必要な価値・知識・技術について理解を深める。
- 自身の地域をつくる相談支援の実践の振り返りや、他の実践例の検討を通じて、地域援助の能力を獲得する。
- 実践事例を用いてグループスーパービジョンを体験することで、自らの支援について助言・指導を受けることの重要性を理解する

現任研修全体のまとめ

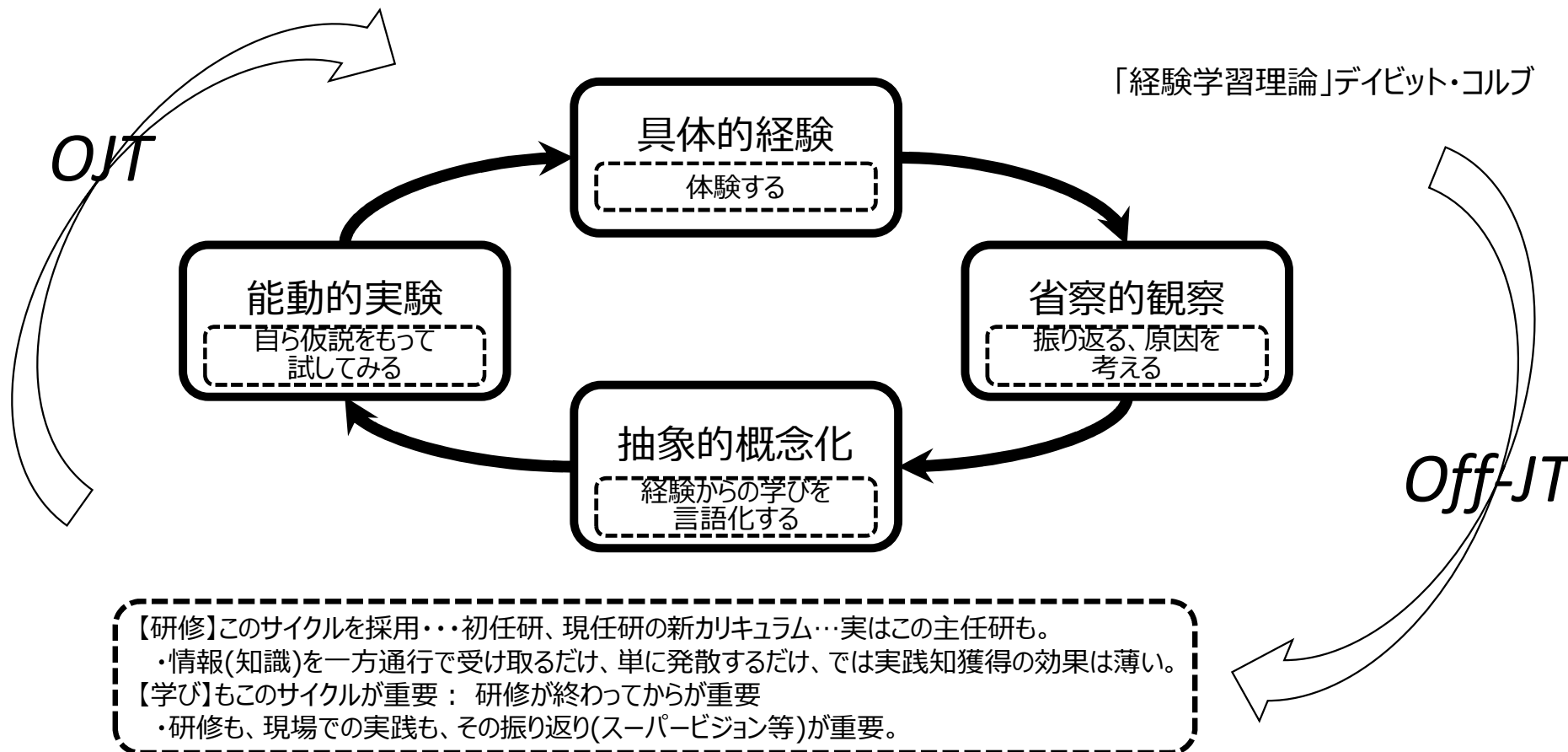
現任研修の獲得目標

- ①相談支援の基本的業務を確実に実施できる。【意思決定(支援)を通して生きがいや自己肯定感を高める支援(ストレングス)、相談支援の技術と能力の獲得】
- ②チームアプローチ(多職種連携)の理論と方法を学び、実践においてチームアプローチが展開できる。【チームアプローチ(多職種連携)を実践するための技術と能力の獲得】
- ③コミュニティワーク(地域とのつながりやインフォーマルサービスの活用、社会資源の開発等)の理論と方法を理解し、実践できる。【地域に即した相談支援の実践力の獲得】
- ④グループスーパービジョンの理論と方法を学び、実践事例を用いてグループスーパービジョンを体験することで、自らの支援について助言・指導を受けることの重要性を理解する

経験学習モデル

— 研修の構造理解のために —

「経験学習理論」デイビット・コルブ



相談支援専門員に求められる力(コンピテンシー)の想定

	初任者研修 (理解できる)	現任研修 (説明・実践できる)	主任研修 (指導できる)
価値(権利擁護・本人中心)	○	○	○
知識・技術(制度・障害特性)	△	△	○
個別ケース対応スキル (記録・関係構築・ケアマネ)	○	○	○
地域デザインのスキル (ネットワーク構築・地域診断と開発改善)	△	○	○
地域や事業所内の人材育成、運営管理のスキル (人材育成・協議会運営)		△	○